

報道関係者各位

2000年10月12日

【参考資料・英文リリース日本語訳】

バルティス2000年1月 - 9月売上 前年比13%増の276億スイスフラン (約1兆7718億円)

- 高血圧症治療薬「ディオバン」の売上が8億500万スイスフランを超え、日本での承認で成長に拍車
- 加齢性黄斑変性治療薬「ビジュダイン」が、上市6ヵ月足らずで1億スイスフランを上回る売上
- カナダにおける悪性腫瘍による高カルシウム血症治療薬「ゾメタ」初承認、米国における緑内障治療薬「レスキュラ」承認および過敏性腸症候群治療薬「ゼルマック」、「ゾメタ」承認見込み
- シンジエンタの設立、予定どおり進行中

バルティスグループ 1月 - 9月売上

	2000年		1999年		前年比	
	百万スイスフラン	億円	百万スイスフラン	億円	スイスフラン (%)	現地通貨 (%)
医薬品	12,968	8,320	11,230	8,823	16	7
ジェネリック	1,458	935	1,340	1,053	9	6
チバビジョン	1,400	898	1,181	928	19	9
コンシューマーヘルス ⁽²⁾	4,684	3,005	4,094	3,217	14	7
動物薬	789	506	750	589	5	-2
継続するビジネス	21,291	13,664	18,595	14,610	15	7
アグリビジネス(分離予定) ⁽³⁾	6,319	4,054	5,593	4,394	13	5
コンシューマーヘルス(分離)						
合計	27,618	17,718	24,370	19,004	13	5

1) 2000年第1四半期に、医薬品の製品の一部分がコンシューマーヘルスの一般薬に移管された。移管された製品の昨年同期の売り上げは2億4,100万スイスフランであった。医薬品とコンシューマーヘルスの売り上げはこれに応じて調整済。

2) 売却したビジネスを除く。

3) アグリビジネス: 農薬と種子。

換算レート: 2000年 1スイスフラン = 64.16円
1999年 1スイスフラン = 78.57円

10月11日スイス・バーゼル発

バルティスグループの2009年9月の総売上は276億スイスフラン(約1兆771億円)で、スイスフランで前年比13%増、現地通貨では5%増でした。1999年に売却した事業と11月中旬に分離する予定のアグリビジネスを除くと、継続するヘルスケアビジネスの9月の売上は213億スイスフラン(約1兆366億円)となり、スイスフランで15%、現地通貨で7%の伸びとなります。

継続する事業部門について

医薬品(現地通貨7%増)

医薬品は、新製品と主要成長製品に絞って事業展開をした結果、堅調な伸びを示しました。高血圧症治療薬「ディオバン」「コディオバン」は9月の売上8億5,000万スイスフラン(約545億円)で、54%の伸びを示し、マーケットシェアを引き続き拡大させました。高血圧症治療薬「ロトレル」(ロテンシン+アムロジピン)の売上は55%の伸びで、高血圧症治療薬「チバセン/ロテンシン」ラインの25%増を補強しています。また、ぜんそく治療薬「フォラジール」は29%増、骨粗鬆症治療薬の「ミアカルシック」も20%増で好成績を収めました。

抗真菌剤「ラミシール」は11%増で、米国において消費者に直接訴える新しい広告(DTC)が功を奏しました。骨吸収抑制剤「アレディア」は27%増で、再び2桁台の成長を記録しました。

バルティスは、この製品の特許権の保護に力を注いでおり、最近米国において、ジェネリックの競合製品に有利な裁定がなされる可能性が高くなったことから、オプションとしての方策を考慮中です。免疫抑制剤「サンディムン/ネオオラル」の売上は、第2四半期におけるネオオラルの日本における上市によって移植治療分野での新しい成長をもたらし、米国におけるジェネリック競合品の圧力を緩和したにもかかわらず、4%の減少をみました。

鎮痛・抗炎症剤「バルタレン」(11%減)はジェネリック製品との競合拡大と、米国における新しいリウマチ治療薬の登場で苦戦しましたが、バルティスはヨーロッパでの市場維持に成功しています。

アルツハイマー病治療薬の「エクセロン」は米国で5月に上市され、1億2,400万スイスフラン(約80億円)の売上を達成し、米国における新規処方薬でのシェアを25%以上に拡大させました。てんかん治療薬「トルプタール」と新しいパーキンソン病治療薬「コムタン」は、米国では上市1年目を迎えたばかりですが、いずれも明るい見通しを予想させるスタートを切っています。

8月、バルティスは2つの重要な業務提携を締結しました。ひとつはヘルペスの治療薬として効果の高い「ファンビル」と「ベクタビル/デナビル」という2種の抗ウイルス薬をスミスクライン・ピーチャムから取得しました。これはグラクソとスミスクラインの合併の承認手続きが完了することを条件としています。

もうひとつはタイプ1の糖尿病治療薬「スターリクス」をメルク社と共同プロモーション、共同販売する契約です。また、9月にはバルティスとオゾン社はパーキンソン病治療のために新しい合剤(エンタカポン+レボドパ+カルビドパ)の開発について契約を締結しました。

第3四半期には、いくつかの新薬上市申請が順調に行われました。「ディオバン」は世界第2の大きな市場である日本で承認されましたし、悪性腫瘍による高カルシウム血症治療薬「ゾメタ」がカナダで初めて承認され、また米国ではオーファンドラッグとして認められる予定です。

「ゼルマック」は、米国において女性の過敏性腸症候群治療薬として承認可能の通達を受け取っています。さらに「フェマーラ」は、FDAで閉経後の進行性乳がんの第1選択薬として優先

承認審査の対象に上げられました。最近提出されたデータでは、タモキシフェンより高い効果が期待されています。

精神分裂病の治療薬として現在開発中の「ゾマリル」(一般名:イロペリドン)については、大規模な臨床第 Ⅲ 相試験が行われていますが、安全性と有効性について非常に良い結果が報告されています。

最近では、高コレステロール血症治療薬「レスコール(日本名:ローコール)」の新剤型である「レスコール XL」が米国で承認され、「スターリクス」はスイスとブラジルで最初に承認されました。

ジェネリック(現地通貨 6%増)

ジェネリックの売上は、バルク製品の強固な伸びに支えられました。ペニシリン系やマクロライド系抗生物質の価格攻勢に販売量の拡大で対応することができ、好成績を収めました。

小売ビジネスも米国を除いて好調でした。

ラテンアメリカ、ヨーロッパ、アジアでは、主として新製品の上市により好調に成長しました。米国のジュネーブ製薬は、堅調であった 1999 年第 3 四半期に対して売上が減少しました。これは一般的な価格破壊と、本年初め、高血圧症治療薬「テラソシン」の独占権が終了したことによるものです。ドイツではアズファルマ社の売上は血糖値測定試薬「エクセル」の上市と骨粗鬆症治療薬「サントカル D」の上市で引き続き上昇しました。

チバビジョン(現地通貨 9%増)

チバビジョンの売上は画期的な加齢性黄斑変性症治療薬の「ビジュダイン」の好業績により大きく伸びました。ビジュダインの売上は、上市後 6 か月足らずの間で 1 億スイスフラン(約 64 億円)を超えています。眼科領域はさらに抗アレルギー点眼薬の「ザジテン/ザジトル」の驚異的な売上と「レスキュラ」の緑内障治療承認で好調な伸びを示しました。

大量販売のコンタクトレンズ事業は、1日使い捨てコンタクトレンズの「フォーカス・デイリーズ」が英国、イタリア、北欧諸国、米国、日本で特に好調で、目覚ましい成果を挙げました。従来型コンタクトレンズおよびレンズケア用品は依然として需要減退に直面しています。しかしながらレンズケア用品「ソロ・ケア」ラインは成長路線をキープしています。

チバビジョンは、ウエスリー・ジェッセン・ビジョンケアの買収について FTC (米国連邦取引委員会)の承認を取得した後、10 月 2日、7 億 8,500 万ドルで直ちに買収し、コンタクトレンズ業界で世界第 2位の地位を強固なものとししました。

コンシューマヘルス(現地通貨 7%増)

OTC 事業は世界各地でマーケットシェアを増大させ、ヨーロッパで第 1位となりました。売上は現地通貨で 5%増。貢献したのは局所的鎮痛薬「ボルタレン・エマルゲル」、抗真菌剤「ラミシール・クリーム」、せき・かぜ薬「ネオシトラン/テラフル」などが好業績を挙げたことです。また禁煙補助薬「ニコチネル/ハビトール」の売上には e マーケティングと患者支援プログラムという新しいマーケティング手法の導入が大きく貢献しました。

医療用栄養食品の売上は7%増で、ヘルスケア フードサービス社とサプリメント社の好調が要因です。チューブ食と医療用具はヨーロッパでは好調で、サプリメント社は米国で好調でした。

健康・機能性栄養食品は8%の売上増で、ガーバー社の好調がリードしました。ガーバー グラジュエートとテンダーハーベストの両ブランド食品は、幼児用の新しいスナック食品と新しいレシピの導入で大きくその売上を伸ばしました。ガーバー・ベビーケアは特に大きく伸び、米国での食料品市場チャネルでトップレベルの地位を獲得しました。

動物薬(現地通貨 2%減)

動物薬では畜産動物ビジネスでは成長傾向が維持されました。これは抗生物質「チアムリン」が2桁成長を示したためです。コンパニオンアニマル・ビジネスはノミや犬糸状条虫駆除薬分野における競争激化で、「センチネル」や「プログラム」(ノミ駆除薬)、インターセプター(犬糸状虫治療薬)の売上が減少しました。

1999年秋のセールスキャンペーンが早くスタートしたこともあって、米国での売上増は低調でした。アジア、ラテンアメリカ、ヨーロッパでは好調で、1999年11月の畜産動物用ワクチンと寄生虫駆除薬メーカー「ベリコア」の買収により売上が伸びました。

売却する事業部門について

アグリビジネス(現地通貨 5%増)

農薬の売上は世界的なアグリビジネス不況にもかかわらず、4%増となりました。

NAFTA地域とアジア地域および東欧の一部で売上増をみました。殺菌剤は「チルト」「スコア」などが好調、殺虫剤では「アクタラクレーザー」が引き続き売上を伸ばしました。除草剤は横ばいでしたが、「ヒック」など優先順位の高い製品の売上は引き続き増加しました。グリーンビジネスも引き続き好調でした。

種子部門は8%の売上増で、ヨーロッパにおけるトウモロコシ、オイルシードの好業績がテンサイの作付面積の減少を補いました。またNAFTA地域では大豆の売上と従来のトウモロコシ種、および花卉種子と苗の売上が好調でした。ブラジルにおけるトウモロコシの売上増でラテンアメリカは目覚ましい成長を遂げました。

バルティスのアグリビジネスを分離してアストラゼネカ社のアグロケミカル部門と合併し、シンジェンタ社を設立する計画が進められています。株主の承認が10月11日夕方に得られ、独占禁止法の監督官庁の承認を取得できれば、11月中旬にシンジェンタ設立手続きが完了する予定です。

今後の見通し

2000年通年のバルティスグループの現地通貨ベースの売上は、引き続き成長すると見込まれ、特に医薬品の売上増は20%に近い10%台となるとみられています。

経常利益も昨年の収益増がコンシューマーヘルス部門の非コアビジネスの売却益という一時的な収入増を含んでいたにもかかわらず、堅調な伸びを示すとみられます。金融市場で重要な混乱要因がないかぎり、ノバルティスは純営業外収益を10億スイスフラン(約642億円)の範囲とみており、純利益は前年のレベルを上回ると予想しています。

ノバルティスは純粋なヘルスケア企業の方角に進んでいます。マーケティング・セールスにさらに資源を投資することによって、売上増を加速するよう努力する計画です。

2001年に予定されている、過敏性腸症候群治療薬「ゼルマック」、糖尿病薬「スターリクス」、ぜんそく治療薬「ゾレア」、悪性腫瘍による高カルシウム血症治療薬「ゾメタ」などの大型新薬の上市を成功させるため、医薬品のマーケティング・セールスに来年1年間で10億スイスフラン(約642億円)を追加投資する計画であり、そのため短期の運営利益は減少が見込まれます。

ノバルティスは、医薬品、コンシューマーヘルス、ジェネリック、アイケア、動物薬を事業の柱とする、ヘルスケアにおける世界的リーダーです。アグリビジネスを含むノバルティスグループ全体の1999年度の売上は325億スイスフラン(約2兆4,600億円)、研究開発への投資は年間42億スイスフランを越えました。スイス・バーゼル市に本拠を置くノバルティスは、約8万2,500人の社員を擁し、世界140カ国以上で事業を行っています。ノバルティスは、2000年の下半期には、農薬セクターと種子セクターを独立分離させ、アストラゼネカの農薬部門と合併させる予定であると発表しました。

次の決算発表は2001年2月15日で、2000年通年の業績発表を行う予定です。

お問い合わせ先

ノバルティス ファーマ株式会社

〒106-8618 東京都港区西麻布4-17-30

広報担当・渡辺 邦男 電話：03-3797-8027 ファクシミリ：03-3797-4367

ノバルティス アグロ株式会社

〒105-6133 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル33、34階

広報担当・北原 文代 電話：03-5403-1485 ファクシミリ：03-5403-1477

チバビジョン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セントラルタワー13階

広報担当・清野 美智恵 電話：03-5461-1301 ファクシミリ：03-5461-1396

ノバルティス シード株式会社

〒289-2304 千葉県香取郡多古町高津原向ノ台401-2

広報担当・岩崎 義和 電話：0479-75-3111 ファクシミリ：0479-75-3122

ノバルティス アニマルヘルス株式会社

〒105-6137 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル37階

広報担当・丸尾 真知子 電話：03-3435-5245 ファクシミリ：03-3435-4012